



令和3年7月19日

十日町市 越後松之山「森の学校」キョロロ

松之山で新種のカガンボ2種が発見されました

十日町市松之山の天水山で採集されたヒメガガンボ科の昆虫2種が、「森の学校」キョロロの加藤大智^{だいち}研究員の発表した論文により、新種「*Eloeophila apicisetula*」、*Eloeophila tergilobellus*^{ターギロベルス}として認められました。

1 論文概要

- 出版雑誌：^{ズータクサ}「Zootaxa」（動物分類学に関するニュージーランドの国際学術雑誌）
- 出版日時：2021年7月1日
- 論文タイトル：「Taxonomic study of the genus *Eloeophila* Rondani, 1856 of Japan (Limoniidae, Diptera).」（日本の*Eloeophila*属の分類学的研究）
- 著者：Daichi Kato／十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ 加藤大智研究員（専門…ハエ目の分類学）
- 概要：日本産*Eloeophila*属の種はこれまで9種が知られていたが、国内各所で採集した標本、アメリカのスミソニアン博物館に保存される既知種の新種記載時に用いられたタイプ標本の調査をもとに、5新種が認められ、既知の2種と1亜種は国内外の種と同種と判断された。その結果、日本産の本属の種は13種となった。

2 十日町市からの新種2種の概要

- 本論文の5新種のうち、2種（*Eloeophila apicisetula*^{エロエオフィラ アピシセチュラ}・*Eloeophila tergilobellus*^{エロエオフィラ ターギロベルス}）が、十日町市で採集された個体をもとに新種記載された。2種の学名はそれぞれ特徴的な「翅の先端付近の微小な毛の列」^{はね}、「オスの腹部第7・8節の小突起」に由来する。
- Eloeophila*属の新種が論文掲載されたのは、日本では1976年以来45年ぶり。
- 採集地は松之山の天水山の標高900m付近のブナ林で、当地域以外にも東北・中部地方でも発見されている。なお、昨年12月に発表された新種^{ウロモルファ ロンジベニス}の「*Ulomorpha longipenis*」は、北海道から九州から広く分布している。
- キョロロの一連の新種発見は、身近な自然環境でも新種が見つかる可能性を示す好例で、展示公開や環境教育活動での活用とともに、地域の自然環境の保全や生物多様性の理解の深化を期待する。

3 その他 参考資料あり

■お問合せ先

越後松之山「森の学校」キョロロ

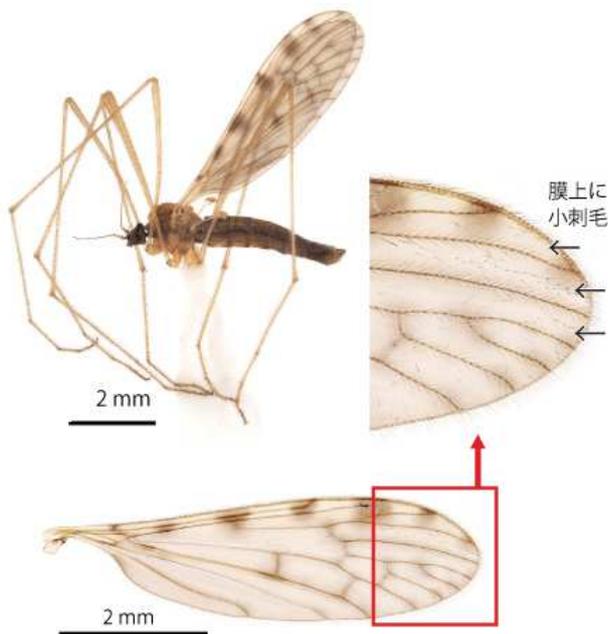
担当：加藤大智（研究員）、小林誠（学芸員）

☎025-595-8311

十日町市松之山 (天水山) から新種のヒメガガンボ科 2 種

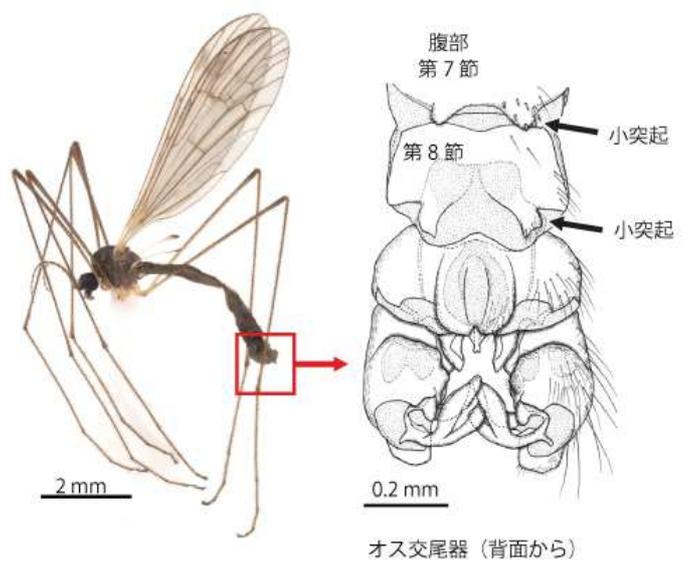
Eloeophila apicisetula Kato, 2021

エロエオフィラ・アピシセチュラ
先端の小刺毛



Eloeophila tergilobellus Kato, 2021

エロエオフィラ・ターギロベルス
腹部背板の小突起



← 採集地付近の様子 (天水山 標高 900 付近)

【採集地】十日町市松之山 天水山 標高 920 m
沢沿いにて捕虫網で採集

【採集日】*Eloeophila apicisetula* 2019/8/18

Eloeophila tergilobellus 2019/7/3

【採集者】加藤大智

【分 布】*Eloeophila apicisetula* 青森、新潟、長野

Eloeophila tergilobellus 青森、新潟